

# 経営比較分析表（平成29年度決算）

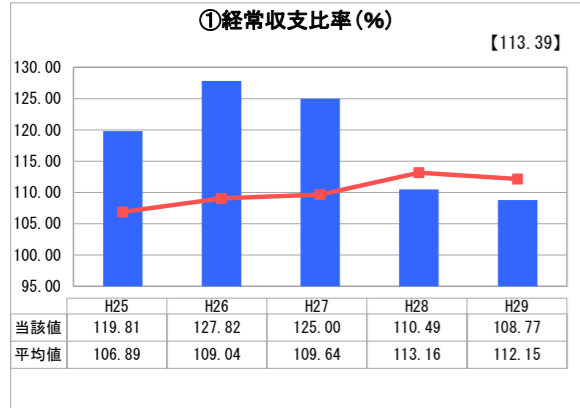
熊本県 五名市

業務名	業種名	事業名	類似団体区分	管理者の情報
法適用	水道事業	末端給水事業	A4	非設置
資金不足比率(%)	自己資本構成比率(%)	普及率(%)	1か月20m <sup>3</sup> 当たり家庭料金(円)	
-	60.88	75.08	2,549	

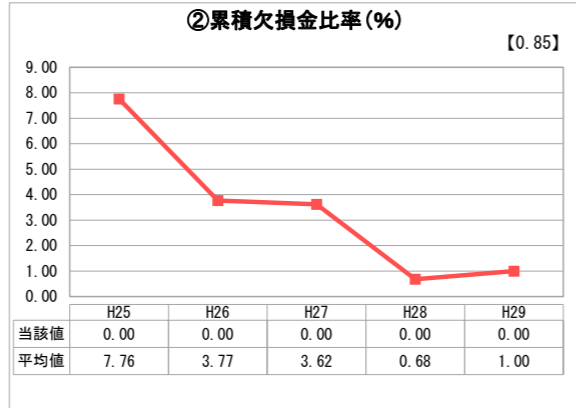
人口(人)	面積(km <sup>2</sup> )	人口密度(人/km <sup>2</sup> )
67,261	152.60	440.77
現在給水人口(人)	給水区域面積(km <sup>2</sup> )	給水人口密度(人/km <sup>2</sup> )
50,190	84.33	595.16

<b>グラフ凡例</b>
■ 当該団体値(当該値)
— 類似団体平均値(平均値)
【】 平成29年度全国平均

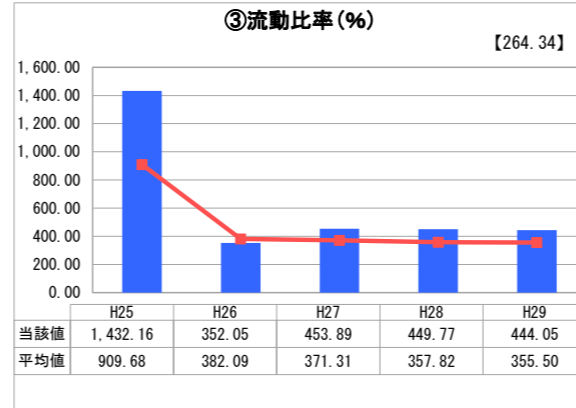
## 1. 経営の健全性・効率性



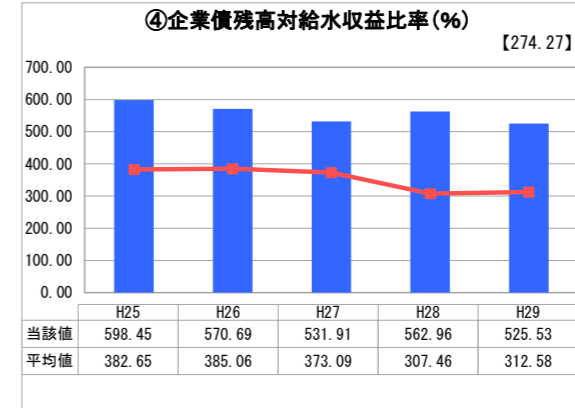
「経常損益」



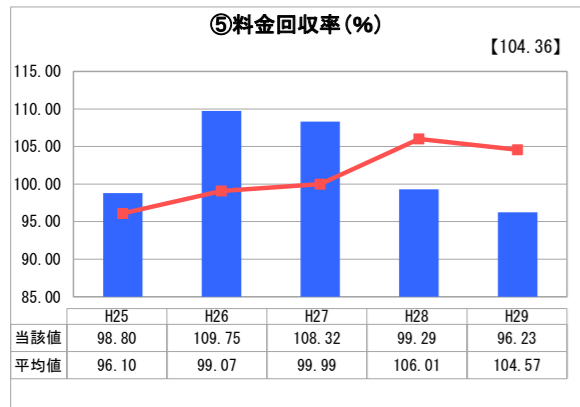
「累積欠損」



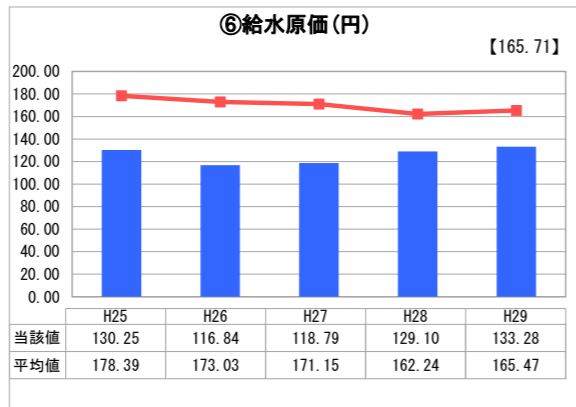
「支払能力」



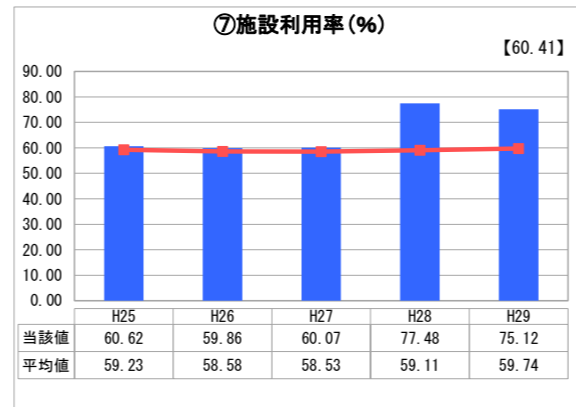
「債務残高」



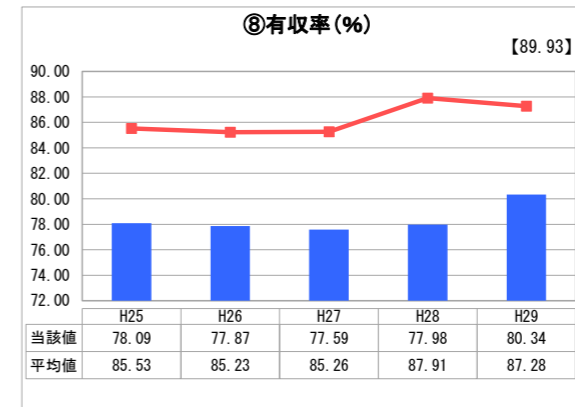
「料金水準の適切性」



「費用の効率性」

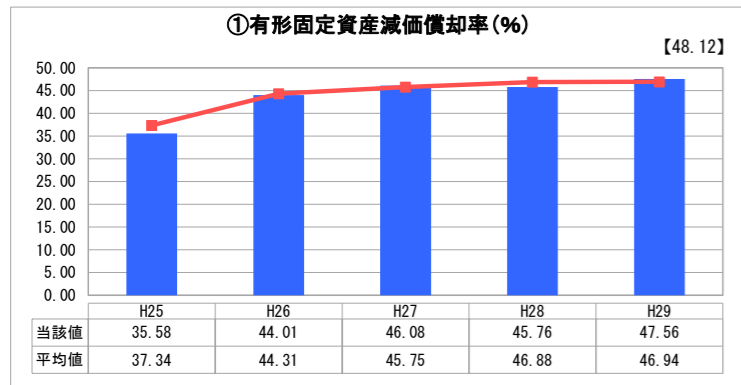


「施設の効率性」

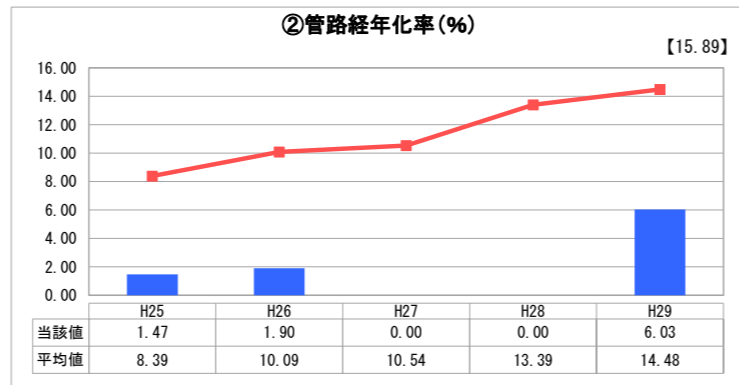


「供給した配水量の効率性」

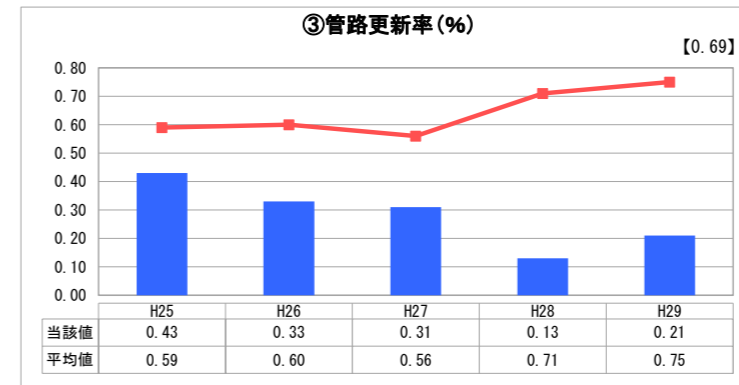
## 2. 老朽化の状況



「施設全体の減価償却の状況」



「管路の経年化の状況」



「管路の更新投資の実施状況」

## 分析欄

### 1. 経営の健全性・効率性について

- ・経常収支比率は100%を超えており、累積欠損金比率は0%であるため、現在は健全な経営水準であるといえます。
- ・流動比率は、類似団体及び全国平均値を上回り、ほぼ同値で推移しているため支払返済能力は確保されていると思われます。
- ・企業債残高対給水収益比率は、類似団体及び全国平均値よりも高水準で推移しており近年の給水区域拡張の影響と見られます。人口減少等の影響により給水収益が減少傾向にあるため今後も投資及び料金等のバランスを考慮していく必要があります。
- ・料金回収率は、平成28年度、29年度と100%を下回り、経営に必要な費用を料金で賄うことができていない状況にあるため、維持管理費等の歳出削減や適切な料金収入の確保が求められます。
- ・給水原価は、類似団体及び全国平均を下回っているため、効率性が保たれています。
- ・施設利用率は類似団体及び全国平均より上回った状況にあるため、適切な施設規模であると思われます。
- ・有収率は、ここ数年類似団体平均値よりも低水準で推移していることから、要因である漏水防止対策のため、平成29年度策定したアセットマネジメント計画を基準に効率的な老朽管の更新を進めていく必要があります。

### 2. 老朽化の状況について

今後、耐用年数に達し更新時期を迎える管路等が増加することが予想されるため、平成29年度策定したアセットマネジメント計画を基準に更新事業を行っていく予定です。

## 全体総括

・アセットマネジメント計画に基づいた効率的な施設整備と適切な料金確保、近隣市町村との広域化共同化事業による維持管理費の縮減に取り組み、将来、安定した経営を継続できるように取り組んでいきたいと考えています。また、中長期的な視点から収入と支出のバランスを確保すべく、新水道ビジョン及び経営戦略を平成31年度に策定します。その中で、指標による経年比較や、類似団体との比較において、明確な水準が見出しにくい指標もあることから、本市としての適切な水準の目標値を設定することを予定しています。

※ 平成25年度における各指標の類似団体平均値は、当時の事業数を基に算出していますが、管路経年化率及び管路更新率については、平成26年度の事業数を基に類似団体平均値を算出しています。